

20日 火曜

エレミヤ

50:1 主が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデヤ人の国について語られたみことば。

50:2 「諸国の民の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。『バビロンは捕えられた。ペルははずかしめられ、メロダクは砕かれた。その像ははずかしめられ、その偶像は砕かれた。』

50:3 なぜなら、北から一つの国がここに攻め上り、この地を荒れ果てさせたからだ。ここには住む者もない。人間から家畜に至るまで逃げ去った。

50:4 その日、その時、主の御告げ。主イスラエルの民もユダの民も共に来て、泣きながら歩み、その神、主を、尋ね求める。

50:5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて、『来たれ。忘れられることのないとこしえの契約によって、主に連なろう。』と言う。

50:6 わたしの民は、迷った羊の群れであった。その牧者が彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡って、休み場も忘れてしまった。

50:7 彼らを見つける者はみな彼らを食らい、敵は『私たちには罪がない。彼らが、正しい牧場である主、彼らの先祖の望みであった主に、罪を犯したためだ。』と言った。

50:8 バビロンの中から逃げ、カルデヤ人の国から出よ。群れの先頭に立つやぎのようになれ。

50:9 見よ。わたしが、大国の集団を奮い立たせて、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣ぞなえをし、これを攻め取る。彼らの矢は、練達の勇士の矢のよ



うで、むなしくは帰らない。

50:10 カルデヤは略奪され、これを略奪する者はみな満ち足りる。主の御告げ。

イスラエルの回復預言です。恥を見続けたイスラエルは、「バビロンは捕えられた」ことにより、シオンに顔を向けて帰れることができるようになります。そのときに重要なことは「泣きながら歩み…主を、尋ね求める」ということです。

人間にとっての本当の栄光は、悔い改めて罪を認めて、主の恵みを回復していただくことによって与えられるのです。自分は間違っていないと言い続けるのは、かえって恥を見ることになるのです。

自分の不信仰が原因の苦難であっても、主は慈しみ愛し続けてくださいます。小さなことでも、主に悔い改めて、本当の栄光に与らせていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

